

委託事業実施内容報告書
平成30年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

団体名：特定非営利活動法人 可児市国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	地域多文化共生人材育成事業
事業の目的	今後も外国人の受け入れによる新たな来日者の増加や定住化傾向が高まると考えられることから、地域で暮らす外国人に必要な日本語の会話や文字の読み書きの習得を支援するとともに、地域の様々な文化を習得する機会を地域日本語教育の拠点として整備する。様々な取組の中で、学んだことを地域でどう活かせるか学習者も指導者も共に考え、地域での日本語教育の在り方を今後も継続して検討していける体制を作ることを目的とする。また、日本語教育の空白地域である坂祝町については、地域住民に日本語教室のサポーターとして呼びかけ、養成し、日本語教室開設に向け、体制を整えることを目的とする。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	子どもを連れて再来日する家族や日本での生活が安定してきたため、家族を呼び寄せたり、依然として実習生や配偶者の存在など、様々な背景をもつ外国人が増えている。初期指導を必要とする学習者、中上級者向け指導を必要とする学習者など、レベルに応じた教室展開が必要になってくることから、これまで文化庁委託事業を活用し、地域課題の解決のために様々な取組を実施してきた。その中でも、日本語能力試験対策や就労のための日本語教室のニーズは根強くあるが、そのようなニーズは、当協会自主事業でカバーし、生活者としての外国人にとって必要な日常会話、防災、親育て子育てに関する日本語能力が習得できる日本語教育の支援は、本事業で取り組んだ。本事業が地域にとって必要な活動であることを多くの関係者に理解いただき、少しずつ参画いただける手応えは感じた。地域日本語教育の拠点として、地域の関係者に日本語教育の成果を示し、その必要性を認識いただけるよう、今後も引き続き、実施体制を整備していきたい。
本事業の対象とする空白地域の状況	岐阜県加茂郡坂祝町。 坂祝町は、パジェロ工場などがあり、在住外国人は576人(H31年1月調べ)、全体人口の比率が6.98%であり、岐阜県内第3位を占める。(参考:1位美濃加茂市8.67%、2位可児市7.19%、3位坂祝町) H28年度末、行政に働きかけを行った。在住外国人の日本語教育の場は必要だと感じておられ、日本語教室を作ることに前向きな姿勢を感じた。但し、ノウハウがないため、まずは、当協会が、本事業で体制を作ることとなった。H29年度、坂祝町住民にサポーターとして呼びかけ、日本語教室の立ち上げに向けて、在住外国人と交流を試みた。話し合いと交流をしていく中で、サポーターは外国人にどんな寄り添い方ができるのか見えてきたようだ。その寄り添いは、立ち上げようとしている日本語教室が現実的であるのか否かを考えながら、今年度は、町内にある、中日本自動車短大の留学生別科の日本語講師を巻き込みながら、坂祝町に相応しい日本語教室を作っていく方向で話がまとまった。
事業内容の概要	H27年度以前から、学習者が日本語教室で学んだことを何らかの方法で評価され、それを地域にアピールでき、就労などに活かされる仕組みを作るため、(仮称)認定証発行に向けた検討に取り組んできた。H27年度、行政と事務局、中核コーディネーターが何度か話し合いをする中で、日本語教室を運営するメンバー(教室リーダー・指導者・サポーター)が認定証の必要性を感じないと、日本語教室と認定証がそれぞれ独立した状態になってしまうのではないかと懸念が生じた。そこで、H28年度から、毎月、日本語教室のリーダーを集めた会議を行い、認定証発行を見据えた教室運営のあり方を検証し、会議を重ねるうちに、形にしていけるものが見えてきた。当初、私たちが思い描いていた認定証は、テストという形式で評価を決めていく方法だったが、学習履歴も評価に入れていくことを考えると「ポートフォリオ」のイメージだということに気付いた。H29年度は、「ポートフォリオ」を実施した。H30年度は、「ポートフォリオ」の検証と「ポートフォリオ」の取り組みを地域へ発信し周知させ、地域の方々に学習者が日本語教室で学んだことを評価されるような機会を作った。 〔取組1: 地域多文化共生人材育成推進委員会〕 ■ポートフォリオの検証 (1) 中核コーディネーター(教室リーダー)会議 (2) 行政・コーディネーター会議 (3) 学習者座談会 〔取組2: 日本語教室〕 *ポートフォリオの実施 ■土曜日日本語教室(19:00～20:30) 読む・聞く・書く・話すの四技能に対応する教室。学習者の希望や指導者の判断により5クラスに振り分けた。(ひらがな・カタカナクラス、漢字クラス、会話クラスⅠ、Ⅱ、Ⅲ) 目的別クラスやレベル分けをすることで、学習者が長期にわたってステップアップできる体制を整えた。 ■日曜日日本語教室(13:30～15:30) 日常生活に必要な日本語を学ぶ、会話・対話中心のクラス。体験型の日本語学習も取り入れ、自己紹介・防災・買い物・料理・病院・電車の乗り方など、生活に沿ったテーマを主に取り扱った。より実践の場面に近付けるために、ロールプレイも行い、生きた日本語を習得させた。 ■中上級者向け日本語教室(15:45～16:45)・・・日曜日開催 上記の土曜日・日曜日クラスのさらに上を目指した中上級の語彙や表現を習得するクラス。市販のテキストを用いたが、テーマは、生活者として役立つものを選定した。 ■親育て子育ての日本語教室(年に2回実施) 日本で子育てをする上で困っていることはないか、分野の専門家や多文化家族における子育ての専門家に講師をしていただき、学習者の悩みを解決したり、情報を得るために大切な知識、言葉・日本語を学んだ。 〔取組3: 災害時に伝わる「やさしい日本語」〕 防災ワークショップや防災まちあるき、避難所体験、体験型ワークショップを通して、防災意識を高めながら、緊急時に必要な情報伝達と日本語を習得した。体験型ワークショップを多文化演劇ユニットMICHIGIが中心になり、可児市防災の会や自治会などと協力しながら企画運営を行った。 〔取組4: 成果発表会〕 本事業の取組の事例報告及び学習者による成果発表会を行った。ポートフォリオの取り組みの紹介や日本語教室の出席回数が多かった学習者を表彰した。外国人採用を行っている地域の企業や地域住民の方々に来場していただき、「ポートフォリオ」の検証と「ポートフォリオ」の取り組みを地域へ発信し周知させ、地域の方々に学習者が日本語教室で学んだことを評価されるような機会となった。 〔取組5: 空白地域での取組: 岐阜県加茂郡坂祝町〕 日本語教室の方針を坂祝町と協議し、決定。来年度日本語教室立ち上げに向けて、内容の企画立案に用いた。日本語教室立ち上げに関わって下さる支援者を募集し、地域日本語支援者養成講座を実施した。また、学習者のニーズを知るために、坂祝町在住外国人16歳以上にアンケートを送付。アンケート結果を分析し、日本語教室の内容に役立てたり、坂祝町外国人町民意識報告書として作成した。
事業の実施期間	平成30年5月～平成31年3月(11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	米勢 治子	東海日本語ネットワーク 副代表
2	小島 祥美	愛知淑徳大学 准教授
3	松井 かおり	朝日大学 准教授
4	春成 浩治	岐阜県国際交流センター 局長補佐
5	加藤 エジソン	可児市役所 人づくり課
6	登田 アンナ	板祝町役場総務課企画係・板祝町定住外国人自立支援センター
7	山田 久子	多文化演劇ユニットMICHIE 代表
8	各務 真弓	可児市国際交流協会 事務局長
9	近藤 利恵	可児市国際交流協会 事務局次長



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成30年 7月20日(金) 10:00～12:30	2.5時間	可児市子育て 健康プラザ 研修会議室2	米勢 治子、小島 祥美 松井 かおり、春成 浩治 加藤 エジソン 登田 アンナ、山田 久子 各務 真弓、菰田 さよ 近藤 利恵	(1)メンバー紹介:昨年度から引き続きのメンバーもいれば、交替や補充など新たに変わったメンバーもいる。 (2)今年度の取組:昨年度からの改善点を織り込みながら、今年度、取組予定の周知や運営方法の確認を行った。
2	平成30年 12月10日(月) 10:00～12:30	2.5時間	可児市多文化 共生センター フレビア 研修室1	米勢 治子、松井 かおり 春成 浩治、加藤 エジソン 山田 久子、各務 真弓 菰田 さよ、近藤 利恵	(1)各取組進捗状況:取組3年目にして、今年初めて企業との会議が実施でき、その話し合いが及ぼす影響について、今後、日本語教育とどう結びつけていくのか議論した。 (2)成果発表会について:運営、内容の確認を行った。
3	平成31年 3月7日(木) 10:00～12:30	2.5時間	可児市多文化 共生センター フレビア 研修室2	米勢 治子、春成 浩治 加藤 エジソン 登田 アンナ、山田 久子 各務 真弓、菰田 さよ 近藤 利恵	(1)各取組の進捗状況:3カ年の最終年として、ポートフォリオによる仕組み作りはどうであったか、企業会議を経て、今後の日本語教育体制をどう整えていくか、確認を行った。 (2)今後に向けて:教室運営の見直し、改善策について、話し合った。

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	行政や地域の企業との連携・協力を図ることで、ポートフォリオの取り組みを取組1:委員会や取組4:成果発表会で行政や地域の企業と検証し、本事業でどんな日本語教育を行っているのか、どんな学習者がいるのかを把握し、成果を理解していただくことができた。また、自治会や可児市防災の会との連携・協力を図ることで、日本人、外国人、お互いが伝える・伝わる日本語を学習し、災害時に備えることができた。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	各取組に中核コーディネーターを一人配置する。中核コーディネーターは教室の企画運営を行う。必要に応じて、地域とつながる人材を招き、日本語学習につなげる。取組1:委員会で、中核コーディネーター会議を実施し、取組状況を把握した。会議内容を運営委員会につなげ、検証した。
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞											
取組の名称		地域多文化共生人材育成推進委員会									
取組の目標		ポートフォリオの検証 及び 取り組みの周知									
取組の内容		学習者が継続して日本語教室に通おうと思うのは、学習したことが、地域で使えることや学習したことが地域社会で認められることではないかと考えた。評価テストを行って認定証を付与するという内容で、数年検討してきたが、会議を重ねていくうちに、ポートフォリオで学習履歴を認める方法に取り組むことにした。昨年度から、ポートフォリオで学習者を一人一人管理(約200名)している。今年度は、ポートフォリオにおける課題(記載事項やフォーマット、周知方法、活用方法、共有方法等)を見直し、改善できるところなどをこの地域多文化共生人材育成推進委員会で検証し、さらには、地域社会にポートフォリオの取り組みを発信し、周知させ、地域の方々に学習者が日本語教室で学んだことを評価されるような機会を作った。。 ■地域多文化共生人材育成推進委員会の開催 ①中核コーディネーター(=教室リーダー)会議 ②行政・コーディネーター会議 ＊ポートフォリオ・CanDoリストの課題を見直し、改善点の検証、地域の方々に認めてもらうためにどうしたらいいかを検討する会議の実施 ＊地域の企業の方々と会議の実施 ③学習者座談会 ＊CanDoリストに取り組んで、どうだったか学習者に直接聞く座談会の実施									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動	—									
取組による体制整備		日本語教室の関係者が、ポートフォリオによる学習履歴を理解し、日本語学習評価として活用されるよう、行政や地域の企業担当者の理解を促進することで、ポートフォリオの運用に向けた環境整備につなげた。									
取組による日本語能力の向上		特になし									
参加対象者		日本語教育有識者、日本語教室の関係者、行政、学習者					参加者数 (内 外国人数)		62人(23人)		
広報及び募集方法		協会のホームページ、FaceBook、メルマガ、チラシ、多言語情報誌、行政									
開催時間数		総時間 13時間(空白地域 0時間)			中核コーディネーター会議 行政会議 企業会議 座談会		2時間×1回、3時間×2回 2時間×1回 2時間×1回 1時間×1回				
主な連携・協働先		可児市役所、可児青年会議所									
受講者の出身 (ルーツ・国別内 訳(人))	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	4		8	1					9	39	
※該当する場合のみ		スペイン(1人)									
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成30年 7月9日(月) 10:00～12:00	2	可児市 多文化 共生センター プレビア	3	中核コーディネーター 会議	日本語教室の運営方法 ポートフォリオの活用方法 企業会議に向けて		—	近藤 利恵 菰田 さよ 山田 久子		
2	平成30年 8月21日(火) 14:00～16:00	2	可児市 多文化 共生センター プレビア	4	行政会議	ポートフォリオについて、 今後どのように活用し、 展開していくか		—	加藤 エジソン 中村 裕 各務 真弓 近藤 利恵		
3	平成30年 10月30日(火) 9:30～12:30	3	可児市 多文化 共生センター プレビア	4	中核コーディネーター 会議	企業会議に向けて ポートフォリオの検証 座談会実施に向けて 成果発表会の検討		—	各務 真弓 近藤 利恵 菰田 さよ 山田 久子		
4	平成30年 11月18日(日) 14:30～15:30	1	可児市 多文化 共生センター プレビア	22	座談会	ポートフォリオについて学習者は どのように感じているのか		近藤 利恵 菰田 さよ	石川 英明、玉置 啓二、 木村 蕃、古沢 光子、 神谷 明子、伊藤 草子、 小沢 陽三、細谷 高史、 恵土 珠吏、岸野 一樹 吉田 武史 吉田 よしえ、戸塚 真希		
5	平成30年 11月28日(水) 18:00～20:00	2	可児市 総合会館 分室	10	企業会議	自己紹介 可児の現状、日本語教室の取り組み、 ポートフォリオ、座談会、 外国人の雇用について 意見交換を行った		—	中村 裕、各務 真弓 近藤 利恵、菰田 さよ 〔可児青年会議所〕 神田、杉本、長谷川、 松岡、渡邊、三浦		

6	平成30年 12月13日(木) 10:00~13:00	3	可児市 多文化 共生センター フレミア	4	中核コーディネーター 会議	今年度の振り返り 今後について	—	各務 真弓 近藤 利恵 菰田 さよ 山田 久子
---	-----------------------------------	---	------------------------------	---	------------------	--------------------	---	----------------------------------

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第4回 平成30年11月18日】座談会
学習者にとって、ポートフォリオの取り組みは、どう思っているのか、確認をする目的で、開催した。
①自己評価について、どう思っているか。
②今年度から、ファイルを持ち帰ることにしたが、復習はしているか。
③(今後の企業会議のテーマを踏まえて、)正社員と派遣社員の違いを知っているか。
④今の会社を続けたいか。
など、サポーターがファシリテーターとなり、国籍別に分かれて、会を進めた。



○取組事例②

【第5回 平成30年11月28日】企業会議
可児青年会議所(JC)の方々との会議。
①自己紹介
②本事業での取り組み紹介
③外国人の雇用について
住宅設備、飲食店、塗装業、建築業等、「地域の現場で働く」という外国人を送り出す側としては、好条件の企業の方々の本音をお聞きすることが出来た。雇用する側の気持ちとしては、「雇ってあげたい」「可児のために」と思っているが、お客様の「え？外国人を雇用しているの？」という感覚がまだ多い。ある飲食店が、「外国人を多く雇用しているが、ほとんどが使い捨て状態」とはっきり言われたことがある。ほとんどの会社は「労働力」としての感覚だけである。という現実があることを知った。JCの方からは、何人かモデルとなる人を育成し、本当に自分のやりたいことの仕事の方向性は何かを知る。3~5年は働きます！というご恩の気持ちがないと、特に中小企業は雇わない。と今後の取り組みに参考になるお話を伺えた。



(2) 目標の達成状況・成果

継続して学習者が来ないという課題を改善するために始まったポートフォリオの取り組みについて、学習者はこの取り組みをどう思っているのか。座談会という形で調査を行った。CanDoリストがあることによって、「今回のテーマの日本語を理解する上で役立つ」「今日の勉強の内容がすぐ分かる。自分の意見も書ける。」「自己評価シートは良い。やった後と前で自分の進歩が分かる」「自己評価は意味がある。自分の日本語の出来具合が分かる。少しずつ上達させていくことは大事」という好評価だった。会社にファイルを見せ、上司が褒めてくれた。という学習者がいた。日本語教室で学んでいることを自分から進んで話題にしてくれることは、私たちにとって嬉しい報告だった。この取り組みについて、地域の企業の方々はどう捉えてくれるのか、3力年の最終年に初めて、企業会議を行うことが出来た。可児青年会議所(JC)の6名に日本語教室の取り組み、どんな学習者がいるのか、何を勉強しているのか、ポートフォリオの取り組み等を話し、在住外国人の直接雇用につなげる機会についても触れた。しかし、「雇用してもすぐに辞めてしまう」「地域住民の外国人に対する先入観」「ネガティブな雰囲気がある」等、現実的な状況を突きつけられた。JCの皆さんは、外国人に対するハードルを下げる地域づくり、フィルターを外す必要がある。JCが地域の目を変えてみせる。など、心強いご意見を下さった。ポートフォリオを活かして人材をアビールするつもりだったが、会議ではまだそこまで至らなかった。しかし、JCの方々が言って下さったように、地域企業と一緒に外国人に対する地域づくりを本事業を通して、一歩進んだように感じられた。

(3) 今後の改善点について

継続して日本語教室に通った学習者を周知させ、直接雇用に導く評価につなげる方法として、ポートフォリオを取り入れたが、実際、派遣社員から直接雇用を考える学習者は少なく、地域企業とのマッチングは程遠いものだった。しかし、当初の狙いから外れてしまった会議ではあるが、顔の見える関係性を築けたこと、外国人住民を巻き込む活動に理解、賛同を得られたことは大きかった。今後は、ポートフォリオの活用方法を見直し、中身を充実させる検討を行わなければならない。

＜取組2＞											
取組の名称		日本語教室									
取組の目標		〔日曜日・土曜日・中上級〕 日本語教室での学習を通して、 ①教室で学習した日本語が、学習者の日々の生活に活きること。 ②学習者が日本語をツールとして、安心・安全に暮らすことができる。 ③地域とのつながりが増える、広がる。 〔子育て〕 ①講座を通して、参加者が子育てに役立つ日本語を学習するとともに、学習した内容を日々の生活で実践できるように支援する。 ②日本での子育てに役立つ情報を発信し、日々の生活の中で活用してもらう。 ③地域住民同士の交流、情報交換の機会をつくる。									
取組の内容		■土曜日日本語教室(19:00～20:30) 読む・聞く・書く・話す の四技能に対応する教室。学習者の希望や指導者の判断により、5クラスに振り分けた。(文字クラス、漢字クラス、会話クラスⅠ・Ⅱ・Ⅲ) クラスやレベル分けをすることで、学習者が長期にわたって、ステップアップできる体制を整えた。 ■日曜日日本語教室(13:30～15:30) 日常生活に必要な日本語を学ぶ、会話・対話中心のクラス。体験型の日本語学習を取り入れた。例えば、自己紹介・防災・買い物・料理・病院・電車の乗り方など、生活に沿ったテーマを主に取り扱った。より実践の場面に近付けるためにロールプレイも行った。ロールプレイを通して、生きた日本語を学習した。 ■中上級者向け日本語教室(日曜日 15:45～16:45) 日本語をさらに向上させたい人のためのクラス。定住化する外国人が増えている傾向にあるため、生活に沿ったテーマで語彙や表現を学習した。 ■子育ての日本語教室 子どもを持つ保護者向けの教室。子育てに役立つ日本語を学習しながら、日本ならではの文化や子どもに関連する事情についても理解を深められるよう、内容を工夫した。また、学習した内容を日々の生活に役立てることができるよう、実用的なテーマを設定し、2回実施した。(第1回:お弁当を作ろう 第2回:入学準備ガイダンス)									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動	－									
取組による体制整備		・教室運営について、コーディネーターだけではなく、日本語指導者、日本語サポーターも加わり、全員が関心を持って取り組んだ。 日曜日クラスでは、専門分野の担当者を講師として招いた。また、フレビア内だけではなく、地域に出向き、地域を日本語教室として活用した。 ・ポータルフォリオを通じて、土曜日・日曜日・中上級者向け日本語教室 全ての日本語教室と連携が図れるように教室運営を行った。									
取組による日本語能力の向上		■土曜日日本語教室 読み書き(ひらがな・カタカナと生活の中で使う漢字)、日常会話から生活の中で使う日本語や文法を取り上げることができた。 ■日曜日日本語教室 病院、買い物、防災、料理など、身近な生活に関する日本語を習得することができた。 場面練習や発表を通して、場面に合った日本語をアウトプットすることができるようになった。 ■中上級者向け日本語教室 生活に沿ったテーマで、高度な語彙や表現を身に付けた。 ■子育ての日本語 子育てに役立つ日本語や学習した内容を日々の生活で実践できるようになった。									
参加対象者		日本語を学習したい外国人					参加者数 (内 外国人数)		〔土曜日〕 139人 (139人) 〔日曜日〕 96人 (96人) 〔中上級〕 14人 (14人) 〔子育て〕 41人 (41人)		
広報及び募集方法		協会のホームページ、FaceBook、メルマガ、チラシ、多言語情報誌									
開催時間数		総時間 72時間(空白地域 0時間)				〔土曜日〕 1.5時間 × 15回 =22.5時間 〔日曜日〕 2時間 × 14回 =28時間、3.5時間 × 1回 =3.5時間 〔中上級〕 1時間 × 14回 =14時間 〔子育て〕 2時間 × 2回 =4時間					
主な連携・協働先		多文化演劇ユニットMICH、可見市防災の会、ミールの会、可見市子育て応援センターばあむ									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	6	0	43	19	0	0	7	0	58	2	
〔土曜日〕		パキスタン(1人)、カナダ(1人)、トルコ(1人)、スペイン(1人)									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	11	0	36	11	1	0	2	0	32	0	
〔日曜日〕		アメリカ(1人)、カナダ(1人)、スペイン(1人)									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	2		5				3		3	1	
〔中上級〕											
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
			27						14		
〔子育て〕											

実施内容【土曜日】								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	平成30年7月7日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレピア	22	文字・語彙・会話	文字:ひらがな復習、漢字 会話:予約する、家族の話	大野 伸次 内田 貴子 佐分 巧尚 菰田 さよ	
2	平成30年7月21日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレピア	41	文字・語彙・会話	文字:カタカナ(ア～サ行)、漢字 会話:自己紹介をする、休みの電話をする 病院の先生と話す	細野 高宏 内田 貴子 安藤 誠司 徳竹 礼圭 各務 清香	細谷 高史・菰田 さよ
3	平成30年8月4日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレピア	16	文字・語彙・会話	文字:カタカナ(マ～ワ行)、漢字 会話:売り場を訪ねる、レストランで注文する 経験を話す	大野 伸次 細野 高宏 内田 貴子 佐分 巧尚 安藤 誠司 菰田 さよ	
4	平成30年8月18日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレピア	21	文字・語彙・会話	文字:カタカナ復習、漢字 会話:予約する、意見や感想を言う	細野 高宏 安藤 誠司 徳竹 礼圭 各務 清香	菰田 さよ・内田 貴子
5	平成30年8月25日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレピア	20	文字・語彙・会話	文字:ひらがな(あ～さ行)、漢字 会話:自己紹介をする、欲しいものを言う	大野 伸次 細野 高宏 細谷 高史 菰田 さよ	
6	平成30年9月1日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレピア	27	文字・語彙・会話	文字:ひらがな(た～は行)、漢字 会話:お店で尋ねる、お願いをする	田牧 恵子 大野 伸次 細野 高宏 菰田 さよ	
7	平成30年9月8日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレピア	37	文字・語彙・会話	文字:ひらがな(ま～わ行)、漢字 会話:売り場を訪ねる、結婚式・お葬式 相手がokか聞く	田牧 恵子 細野 高宏 佐分 巧尚 徳竹 礼圭	菰田 さよ
8	平成30年9月29日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレピア	19	文字・語彙・会話	文字:ひらがな復習、漢字 会話:予約する	田牧 恵子 徳竹 礼圭 各務 清香 内田 貴子	菰田 さよ
9	平成30年10月13日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレピア	40	文字・語彙・会話	文字:カタカナ(ア～サ行)、漢字 会話:自己紹介をする、休みの電話をする	田牧 恵子 佐分 巧尚 徳竹 礼圭 菰田 さよ	
10	平成30年10月20日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレピア	33	文字・語彙・会話	文字:カタカナ(タ～ハ)、漢字 会話:お店で尋ねる、好きな場所	田牧 恵子 大野 伸次 各務 清香 細谷 高史 菰田 さよ	
11	平成30年10月27日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレピア	26	文字・語彙・会話	文字:カタカナ(マ～ワ)、漢字 会話:売り場を訪ねる、レストランで注文する	内田 貴子 佐分 巧尚 徳竹 礼圭 菰田 さよ	
12	平成30年11月10日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレピア	20	文字・語彙・会話	文字:カタカナ復習、漢字 会話:予約する、荷物を送る	田牧 恵子 内田 貴子 佐分 巧尚 徳竹 礼圭	菰田 さよ
13	平成30年11月17日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレピア	29	文字・語彙・会話	文字:ひらがな(あ～さ)、漢字 会話:自己紹介をする、電車の乗り方を聞く	田牧 恵子 大野 伸次 内田 貴子 各務 清香 細谷 高史	菰田 さよ
14	平成30年12月1日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレピア	13	文字・語彙・会話	文字:ひらがな(た～は)、漢字 会話:お店で尋ねる、お願いをする	大野 伸次 徳竹 礼圭 細谷 高史	菰田 さよ
15	平成30年12月15日(土) 19:00～20:30	1.5	可児市多文化共生センター フレピア	22	文字・語彙・会話	文字:ひらがな(ま～わ)、漢字 会話:売り場を訪ねる、料理の作り方	田牧 恵子 徳竹 礼圭 細谷 高史 菰田 さよ	
実施内容【日曜日】								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	平成30年7月8日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレピア	24	会話	110番・119番に電話する 緊急時の対応・電話での対応について	菰田 さよ	石川 英明・古沢 光子 山田 久子・伊藤 章子・渡辺 美也子
2	平成30年7月22日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレピア	26	会話	電車を利用する 様々な状況の中で駅員さんに尋ねた (忘れ物・乗り換え・緊急停止等)	菰田 さよ	石川 英明・神谷 明子・木村 善 古沢 光子・山田 久子・伊藤 章子 小沢 陽三・渡辺 美也子

3	平成30年7月29日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレビア	18	会話	いいものみつけ フレビア近辺を歩きながら提示した形容詞に 紐わるものを探し理由を添えて発表すした	菰田 さよ	石川 英明・玉置 啓二・中島 薫 山田 久子・渡辺 美也子
4	平成30年8月5日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレビア	16	会話	私の住むまち 母国・日本で住んでいる(いた)町に ついて紹介した	菰田 さよ	石川 英明・玉置 啓二 山田 久子・伊藤 章子 小沢 陽三・渡辺 美也子
5	平成30年8月19日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレビア	9	会話	まちがいがし 2つのものを比較しながら 何がどう違うのかを発表した	菰田 さよ	古沢 光子・伊藤 章子 小沢 陽三・渡辺 美也子
6	平成30年8月26日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレビア	11	会話	電話での話し方 会社・学校等に電話するときの マナーや家族の言い方など	菰田 さよ	石川 英明・木村 善 玉置 啓二・中島 薫・古沢 光子 山田 久子・伊藤 章子 渡辺 美也子
7	平成30年9月2日(日) 8:30～12:00	3.5	可児市多文化共生センター フレビア 及び 下恵土地区センター	10	会話	防災訓練に参加しよう 地区センターの避難所開設訓練に参加 AEDの使い方、防災設備の見学、 非常食の体験等	◆MICHI(再) 山田久子 住吉エリオ 菰田さよ	伊藤 章子 ◆MICHI(再) 住吉ユウゾウ・片岡 まみ・中 美保子
8	平成30年9月9日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレビア	20	会話	写真 写真を見て、どんな状況か、何があるかを 説明し、発表した	菰田 さよ	石川 英明・神谷 明子・木村 善 玉置 啓二・古沢 光子 伊藤 章子・渡辺 美也子
9	平成30年10月14日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレビア	26	会話	私の歴史 生まれてから現在までの経緯や経験 お互いを理解した	菰田 さよ	石川 英明・神谷 明子・古沢 光子 伊藤 章子・小沢 陽三・渡辺 美也子
10	平成30年10月21日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレビア	18	会話	買い物 靴屋さんで、サイズや色を申し出る 場合の語彙・会話・場面練習	山田 久子	石川 英明・木村 善 古沢 光子・伊藤 章子・渡辺 美也子
11	平成30年10月28日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレビア	25	料理・会話	料理 料理を作りながら可児の特産品や 地元料理を体験した	〔講師〕 南谷 弘子 〔指導者〕 菰田 さよ	石川 英明・玉置 啓二 山田 久子・伊藤 章子・渡辺 美也子 木原 幸子・西尾 範子・柴田 郁子
12	平成30年11月11日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレビア	16	会話	びっくりしたこと 日本で体験した驚いたことや、 日本のおかしなマナーなど 異文化について発表した	菰田 さよ	古沢 光子・伊藤 章子・渡辺 美也子
13	平成30年11月18日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレビア	22	会話・座談会	病院・座談会 診察室で医者と話すとき、病状を 話したり、医者話を聞き取った	近藤利恵 菰田さよ	石川 英明・神谷 明子 木村 善・玉置 啓二 古沢 光子・伊藤 章子 小沢 陽三・細谷 高史 恵土 珠史・渡辺 美也子
14	平成30年12月2日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレビア	22	防災	防災まちあるき フレビアの近辺を歩きながら「危険・安全」な 場所やものを探し、facebookに写真を 投稿し理由をそえて発表した	◆MICHI(再) 山田久子 住吉ユウゾウ 菰田さよ	玉置 啓二・小沢 陽三 渡辺 美也子
15	平成30年12月16日(日) 13:30～15:30	2	可児市多文化共生センター フレビア	13	会話	今年1番のニュース 今年1年にどんなことがあったのか 振り返りながら発表した	菰田 さよ	石川 英明・古沢 光子 山田 久子・伊藤 章子 小沢 陽三・渡辺 美也子

実施内容【中上級】								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	平成30年7月8日(日) 15:45～16:45	1	可児市 多文化 共生センター フレビア 研修室	5	親類・友人・知人	・今日のテーマに関する言葉 ー自分の周りには、どんな人があるか、そ れはどんな言葉で表されるか聞き出し、書き だす ・言葉の説明 ・語形成 ・今日の言葉の読み方 復習	田中安希子	ー
2	平成30年7月22日(日) 15:45～16:45	1	可児市 多文化 共生センター フレビア 研修室	7	人の性格・特徴	・今日のテーマに関する言葉 ーチェックテスト:どのぐらい知っているか ・自分のいいところと悪いところを3つずつ書 くー発表 ・語形成 ・今日の言葉を使って、自分の周りの人につ いて書く。どうしてそう思うのか、そのエビ ソードも書く	田中安希子	ー
3	平成30年8月5日(日) 15:45～16:45	1	可児市 多文化 共生センター フレビア 研修室	4	人に対する感情・ 行動	・今日のテーマに関する言葉 ーチェックテスト:どのぐらい知っているか ・ケンカをしている時、した後は、どんな気持 ちにか発表する ・感情・行動・恋愛の言葉の意味、使い方の 確認、例文 ・今日の言葉を使って、自分や自分の周り の人について文を作る。どうしてそう思うの か、そのエピソードも書く	田中安希子	ー

4	平成30年8月19日(日) 15:45～16:45	1	可児市 多文化 共生センター フレビア 研修室	3	食生活	・今日のテーマに関する言葉 ーチェックテスト:どのぐらい知っているか ・好きな料理は何か。それはどんな味か。お酒を飲むとどうなるか。今、知っている言葉で書いてみる。 ・言葉の意味、使い方の確認、例文	田中安希子	ー
5	平成30年8月26日(日) 15:45～16:45	1	可児市 多文化 共生センター フレビア 研修室	3	生活・家事	・今日のテーマに関する言葉 ーチェックテスト:どのぐらい知っているか ・家の中の仕事(家事)には何があるか、書く ・家事に関する言葉の意味、使い方の確認、例文 ・今日の言葉を使って、好きな家事について書く。その家事をする時の仕方を順を追って書いてみる	田中安希子	ー
6	平成30年9月2日(日) 15:45～16:45	1	可児市 多文化 共生センター フレビア 研修室	6	作文	・「わたしの住むまち」をテーマに作文を書く(作文コンテストに応募した) ・作文の組み立て方について説明 ・作文メモを書く ・原稿用紙に書くー原稿用紙の使い方を簡単に説明	小野木政子 田中安希子	ー
7	平成30年9月9日(日) 15:45～16:45	1	可児市 多文化 共生センター フレビア 研修室	7	生活・健康	・今日のテーマに関する言葉 ーチェックテスト:どのぐらい知っているか ・風邪をひいた時、どんなことをするか、書く ・健康に関する言葉の意味、使い方の確認、例文 ・語形成 ・今日の言葉を使って、健康や美容のためにしていることを書く	田中安希子	ー
8	平成30年10月14日(日) 15:45～16:45	1	可児市 多文化 共生センター フレビア 研修室	5	趣味・娯楽	・今日のテーマに関する言葉 ーチェックテスト:どのぐらい知っているか ・ディクテーション:スポーツに関わるカタカナ語を書く ・趣味にはどんなものがあるか、書く ・趣味・娯楽に関する言葉の意味、使い方の確認、例文 ・語形成	小野木政子	ー
9	平成30年10月21日(日) 15:45～16:45	1	可児市 多文化 共生センター フレビア 研修室	3	旅行・交通	・今日のテーマに関する言葉 ーチェックテスト:どのぐらい知っているか ・各自の思い出に残る旅行について話す ・旅行・交通に関する言葉の意味、使い方の確認、例文 ・今日学んだ言葉を使って、文を作る	小野木政子	ー
10	平成30年10月18日(日) 15:45～16:45	1	可児市 多文化 共生センター フレビア 研修室	3	自然	・今日のテーマに関する言葉 ーチェックテスト:どのぐらい知っているか ・日本の自然について話す ・自然(地形、天気、四季)に関する言葉の意味、使い方の確認、例文	小野木政子	ー
11	平成30年11月11日(日) 15:45～16:45	1	可児市 多文化 共生センター フレビア 研修室	4	仕事	・今日のテーマに関する言葉 ーチェックテスト:どのぐらい知っているか ・国ではどんな仕事が人気か、理由とともに話す ・仕事に関する言葉の意味、使い方の確認、例文 ・例文に倣い、副詞を使った文を作る ・将来、どんな仕事をしたいか話す	小野木政子	ー
12	平成30年11月18日(日) 15:45～16:45	1	可児市 多文化 共生センター フレビア 研修室	3	報道・広告	・今日のテーマに関する言葉 ーチェックテスト:どのぐらい知っているか ・最近、母国でどんなニュースがあったか、話す ・報道に関する言葉の意味、使い方の確認、例文 ・テレビと新聞とインターネットで、どれが一番優れたメディアだと思うか、理由とともに話す	小野木政子	ー
13	平成30年12月2日(日) 15:45～16:45	1	可児市 多文化 共生センター フレビア 研修室	2	コンピューター	・今日のテーマに関する言葉 ーチェックテスト:どのぐらい知っているか ・普段パソコンでどんなことをするか、話す ・コンピューターに関する言葉の意味、使い方の確認、例文 ・練習	小野木政子	ー
14	平成30年12月16日(日) 15:45～16:45	1	可児市 多文化 共生センター フレビア 研修室	4	行事	・今日のテーマに関する言葉 ーチェックテスト:どのぐらい知っているか ・それぞれの国で、結婚する時、何をするか、話す ・行事に関する言葉の意味、使い方の確認、例文 ・例文にある副詞を使った短文作り ・これまで学んだ言葉を使って、将来どんな人と結婚したいか(子どもにどんな人と結婚してほしいと思うか)話す	小野木政子	ー
実施内容【子育て】								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	平成30年 12月16日(日) 15:00～17:00	2	可児市 子育て 健康プラザ mano クッキング スタジオ	24	お弁当を作ろう	・以下の活動を通じて、日本語を学ぶ ーお弁当用のおかずづくりに挑戦する ー子どものお弁当箱に彩り良く盛り付ける ー調理の際の注意点や日本のお弁当事情等について学ぶ	南谷弘子	木原幸子、西尾範子 柴田郁子、糸数明日香 戸塚真希、門脇栄子 加納政子、林万美子 高木啓子、小田麗子
2	平成31年 1月26日(土) 15:30～17:30	2	可児市 多文化 共生センター フレビア 研修室	17	入学準備ガイダンス	・以下のことについて日本語で学ぶ ー入学後の生活について ー入学前に必要な準備について ー入学式当日の流れや服装について	尾崎和美	糸数明日香、戸塚真希 渡辺幸子

(1)-1 特徴的な活動風景(2～3回分)【土曜日】

○取組事例①

【第10回 平成30年10月20日】

会話Ⅰでは、お店の中で場所を聞く表現を学び、実践編でフレビアのスタッフに駅・トイレ・市役所の場所を聞く活動をおこなった。
会話Ⅱでは、好きな場所について写真を見せ合いながら何があるか、何をしたのか、好きな理由を添えて紹介しあった。その日丁度、愛知県とアーラ（公益財団法人可児市文化芸術振興財団）から見学者が来ていたため、可児の好きな場所を紹介した。



○取組事例②

【第1回 平成30年7月7日】

ひらがな・カタカナクラスでは、その日に扱う文字(約15文字)に集中し、その文字を組み合わせて語彙を作るようにした。そのため、昨年度の「未習の文字のフォローができない」という課題をクリアすることができた。15文字に限定することができたので、下記順やバランス、発音など、15文字に集中して学習することができるようになった。



(1)-2 特徴的な活動風景(2～3回分)【日曜日】

○取組事例①

【第5回 平成30年8月19日】

まちがいさがしをツールに会話を展開した。まちがい探しの絵が、結婚式や家族、動物園など、身近なものであったため、単に間違いを探すだけではなく話のネタとして展開しやすく、盛り上がった。最後は、2つの絵の中で「何がどう違うのか」を日本語で発表してもらった。ゲーム感覚ではあったが、生活の中で「何かを比較する」ことについての日本語を習得することができた。



○取組事例②

【第7回 平成30年9月2日】

協会の近くにある地区センターの避難所開設訓練に参加した。避難者登録から始まり、避難所が開設された際の備品の場所や内容の確認、AEDの使用方法などを学んだ。その後、避難食を試食し、防災についての知識を学ぶことができたが、一方的な学習者が受身な訓練であったため、実際の避難具の体験や、避難所での過ごし方など、体験しながら知識と日本語の両方を学べる方法を展開できるような工夫が必要であった。



(1)-3 特徴的な活動風景(2～3回分)【中上級】

○取組事例①

【第1回 平成30年7月8日】

今年度、チラシで開催を告知し、事前に日本語教室で取り扱うテーマを提示した。初回、受講者が5人と多くなく、発話機会が多くなった。テーマに関する言葉の意味、使い方の確認、例文を作ったり、表現の方法を学ぶことを毎回習慣化した。発話だけでなく、書くことも授業の中に取り入れた。



(1)-4 特徴的な活動風景(2～3回分)【子育て】

○取組事例①

【第1回 平成30年12月16日】

第1回は「お弁当づくり」を体験しながら学ぶ活動を実施。卵焼きやおにぎり等、日本では定番のお弁当のおかずを実際に調理体験し、その後、参加者自身で子どものお弁当箱への盛り付けも行った。日本ではお弁当の彩りや盛り付け方も重要視される傾向にある。そういった事情を踏まえ、赤・緑・黄色のおかずを活かして彩り良く盛り付ける方法についても学んだ。また、万能調味料としての焼肉のたれや便利な冷凍食品・お弁当の盛り付けに使えるグッズ等も実物を見せながら情報を提供し、実生活で活かすことが出来るように支援した。調理後は子どもにも参加してもらい、親子で一緒にお弁当を試食してもらった。



○取組事例②

【第2回 平成31年1月26日】

第2回は、こども応援センターばあむから講師を招き、①入学後の生活、②入学前に必要な準備、③入学式当日の流れや服装について、学習した。学用品や洋服等についてはできるだけ多くサンプルを用意し、実物を見せながらレクチャーを行った。また、「4月から小学生にあがるんだ!」という気持ちを保護者と子ども双方に持ってもらうため、当日は親子で話を聞くという形でガイダンスを実施した。



(2) 目標の達成状況・成果

【土曜日】

ひらがな・カタカナクラス→会話Ⅰ→会話Ⅱと、ステップアップできた学習者が数名見受けられた。以前は日曜日のクラスにも来ていたが、学習のスタイルを選択し、継続して来られる教室になったことは、ひとつの成果である。そのおかげで、指導者も学習者の学習履歴や様子・性格を把握できるようになった。目標の、「地域とのつながりが増える」というまでにはまだ程遠くても、「指導者とのつながりが増える」という基本的なことが、今、各グループで、できつつあるように思う。

【日曜日】

料理や防災を通じて、地域の人を巻き込んだ教室展開ができた。身近にあるテーマを取り扱ったことで、「病院」と「美容院」など、教室で学んだことが普段の生活の中で思い出す場面があるという声や、生活の中で日本人に話しかけたり、コミュニケーションが楽しくできるようになったという声も聞くことができた。

教室の後半には、その日のテーマに応じた場面練習や、発表活動をおこなったが、どんなレベルの人でも実践することができた。特に初期レベルの学習者であっても、学習者やサポーターの力を借りながらも、日本語で挑戦しようという姿が印象的だった。また、少人数グループのまま休憩時間を過ごしたりなど、指導者含め、学習者の輪も広がっていることを感じた。

【中上級】

対象とした語彙が多かった分、学習者が普段、分からなくても聞けずにはそのままになっていた言葉や使い方などを多く扱うことができた。「そういう意味だったのか」と納得できたり、全く違う意味に理解していたことに気が付いたという感想があった。普段していることの名称が知れて、嬉しそうな表情を見せる学習者もいた。今回取り扱ったテーマが、「安心・安全に暮らすこと」「地域とのつながりが増え、広がること」につながっているかどうかは分からないが、「日々の生活に活きる」ことには、つながったのではないかなと思われる。

【子育て】

2回の活動を通じて、参加者には実生活に役立つ日本語や日本ならではの文化や事情について学んでもらうことが出来た。また、教室終了後には参加者同士で連絡先を交換する様子も見られ、参加者同士のつながりができ、ネットワークも広がったように感じられた。第1回目の受講後、教室で学んだレシピを活用して子どものお弁当を作っている家庭もあり、生活の中で実践している様子も確認できた。第2回目のガイダンスでは、実際の学校生活の様子や入学に向けて必要な準備等について理解を深めてもらうことが出来た。また、「小学生」や「小学校」という単語をポジティブな会話で使うことの大切さについて、参加者の気づきがあったことも重要な成果である。外国での子育てはわからないことも多く、不安を抱えている保護者も多い。今回のように講座を通じて、前向きな気持ちで子育てを行えるように支援していくことが重要であると考えている。

(3) 今後の改善点について

〔土曜日〕

土曜日の教室での学習を通して、目標の達成ができていないかのヒアリングまではできていないのがひとつの課題ある。学習数者にとって、この教室は時間的に都合がいいのか、1回の学習者数は増える一方、指導者の数が十分ではなく途中から、予定していたクラス数の運営ができなくなってしまった。そのため、各グループ間の差も大きくなってしまい、学習者が”ステップアップできる”というよりも、同じクラスにいて、”内容を繰り返し深める”という状況になってしまった。また、土曜日は1つ1つのクラスが独立している傾向にあり、教室間の横のつながり、学習者とのつながりを、指導者それぞれが図っていかねばならないように感じた。学習者とどんな会話で授業展開をするのか、教室はどこを目指していくのか、指導者の共通認識を深めたい。そして、学習者においては、初期指導が必要な学習者が増加傾向にあるため、今後は必要最低限の会話力を習得できるクラスを設け、初期指導に力を入れていきたい。

〔日曜日〕

学習者が継続してくてくれるようになったが、毎年似たテーマを取り扱うとマンネリ化してしまうため、生活にそったテーマに焦点は当てつつも、様々な視点からのテーマ設定をする必要があると感じた。また、緊急時の対応など、テーマによっては一般では理解しきれていないような内容もあるため、専門の人に協力を仰ぎたいと感じた場面もあった為、防災をテーマにしたときのMICHUのように、共働先を増やしたい。そして、日本語教室を通して、教室や学習者の存在を広め、つながりを持てるような地域への働きかけをしていきたい。

〔中上級〕

取り組み内容は、テキストをガイドにしたことで、ある程度のボリュームと内容を保つことができたが、学んだことが使えるようになるための活動が足りなかった。時間が足りないため、30分程度、時間をもう少し延ばし、活動の時間を確保したい。また、言葉や内容が難しいので、学習者が4～5人位だとレベルに応じた対応などきめ細かく出来て、ちょうどいい。しかし、教室運営という面からみると、4～5人では少ないため、今後は、受け入れるレベルをN3レベルと少し低くし、学習者数を増やしたい。

〔子育て〕

1. タイムマネジメント

毎回、教室を開始できる程度の人数が集まるまでに30分はかかるという現状がある。過去の実施経験から、今回は集合時間を開始時間より30分早く設定し、対応した。今後もこのような対策が必要である。また、基本的にのんびりと作業する参加者が多いため、活動時間内に作業が終わらないといった状況が発生した。第1回目のように参加者も主体的に活動する参加型の教室の場合は、活動毎に時間を区切り、終了時間のリマインドを行う必要がある。

2. 参加人数の管理

参加の申込表明はあるが、実際に当日来るのは半数程度という結果であった。材料や資料の準備といった点からもロスが多く、課題である。当日の準備を行う前の段階で参加者へのリマインドや参加意思の最終確認を行う等、更なる対策を検討していく必要がある。

3. 持ち物忘れの参加者への対応

第1回目は調理をするということで三角巾・エプロンの持参をお願いしており、当日にもリマインドの電話をしていたが、それでも忘れる参加者が数名いた。今回は準備をしていた予備で足りなかったため、予備の数を増やす・リマインドの方法を工夫する等、対応を検討していく必要がある。

＜取組3＞：再委託											
取組の名称		災害時に伝わる「やさしい日本語」									
取組の目標		・可児市の防災訓練との連携訓練の定着 ・可児市防災の会（防災士）や自治会、その他団体との連携 ・防災ワークショップのバージョンアップ ・可児市版「災害時に伝わるやさしい日本語」作成 ・近隣地域の国際交流協会と連携することで、災害時の連携に備える									
取組の内容		■防災ワークショップや防災まちあるき、避難所体験など、体験型のワークショップを通じて、防災意識を高めながら緊急時に必要な情報伝達と日本語の習得。 上記体験型ワークショップを多文化演劇ユニットMICHUが中心になり、可児市防災の会や自治会など、その他団体と協力しながら企画運営、更に外国人住民に伝わる「やさしい日本語」についても参加者らと共に考え検証した。MICHUメンバーのレベルアップとサポートメンバーの増員を目指してワークショップファシリテーションについて勉強会を実施した。 ・企画運営検討会の開催： 1回 ・体験型ワークショップ ①防災ワークショップ 日本語教室 2H × 1回 コーボ牧野向け 2. 5H × 1回 ハンズオブゴッド向け 2H × 1回 ②防災まちあるき（日本語教室） 2H × 1回 ③避難所体験（下恵土自治会・避難所開設訓練） 3. 5H × 1回 ④ファシリテーター養成講座 3. 5H × 1回									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		・多文化演劇ユニットMICHU、可児市防災の会など地域団体との連携 ・地域団体と日本語教室支援者との連携 ・今後の広域連携をめざし、近隣の地域での開催を広げた									
取組による日本語能力の向上		・体験型ワークショップにより、災害・防災の言葉についてイメージがしやすくなった。 ・日本語教室支援者だけでなく、地域の人々とのコミュニケーションの機会をもてた。									
参加対象者		日本語学習者及び支援者					参加者数 （内 外国人数）		128人（112人）		
広報及び募集方法		可児市国際交流協会ホームページ、Facebook、メルマガ、チラシ、多言語情報誌									
開催時間数		総時間 15. 5時間 （空白地域 0時間）			内訳 ① 2時間 × 2回、 2. 5時間 × 1回 ② 2時間 × 1回 ③ 3. 5時間 × 1回 ④ 3. 5時間 × 1回						
主な連携・協働先		日本語教室、可児市防災の会、コーボ牧野住人及びオーナー様（水野様）、多国籍保育所（ハンズオブゴッド）園児及び指導者、下恵土自治会									
受講者の出身 （ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	8		28	20	1		6		47	16	
※該当する場合のみ アメリカ（ 1人）、スペイン（ 1人）											
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成30年6月10日（日） 13:30～15:30	2	多文化共生センター フレビア	27	防災	・大雨の際に出てくる言葉（警報、注意報）を確認 ・警報、注意報が出たらどうするか行動を考えた		山田久子 住吉エリオ 洋一	細田チアゴ（指導補助）		
2	平成30年9月2日（日） 8:30～12:00	3.5	下恵土地区センター、 多文化共生センターフレビア	13	避難所体験	・地域の避難所開設訓練に参加することで、避難所の役割を理解。 ・避難者カードの書き方を確認 ・AEDの使い方を確認 ・非常食の試食		山田久子 住吉エリオ 洋一	中美保子（指導補助） 住吉・イバン・ユウゾウ（指導補助） 片岡まみ（指導補助）		
3	平成30年9月9日（日） 9:30～12:00	2.5	コーボ牧野、 牧野地区センター	21	防災	・災害発生時の行動（地震：頭を隠す、洪水：高い所に逃げる）をイス取りゲームをしながら学び、同時に災害発生時に聞こえてくる音を確認 ・避難所に行く時、家にあるものから何を持っていけばいいか、日用品が描かれているアイテムカードから選び、必要なもの考えた ・コーボ牧野から会場まで歩いて行きながら、道沿いにある災害時に危険な場所や、安全な場所を探した ・災害時に知っていてほしい「あぶない」「危険」「避難」などの言葉を確認、帰る際にお土産プリントを配布した		山田久子 住吉エリオ 洋一	住吉・イバン・ユウゾウ（指導補助）		
4	平成30年12月1日（土） 13:00～16:30	3.5	可児市総合会館分室	5	ファシリテーター養成講座	・ファシリテーター（進行役）の心構えを確認 ・コミュニケーションゲームの内容を確認し、外国人児童に向けて演劇ワークショップを開催した ・ワークショップ実施後、ゲームの進め方や参加者への声掛けなどについて振り返りを行った		河野悟			

5	平成30年12月2日(日) 13:30~15:30	2	多文化共生 センター フレビア	25	防災まちあるき	・決められたルートを防災士と一緒に歩きながら、災害時に危険な場所や役に立つ場所を探しながら歩いた ・会場に戻った後、各グループ毎にルート上で見つけた危険な場所や役に立つ場所を写真とともに発表した	藤村祐子 (防災士) 山田久子	住吉エリオ洋一(指導補助) 住吉・イバン・ユウゾウ (指導補助) 土田祥貴((防災士)指導補助) 南口弘((防災士)指導補助) 渡邊洋((防災士)指導補助) 三宅幹雄((防災士)指導補助)
6	平成31年1月21日(月) 10:00~12:00	2	ハンズオブ ゴッド、 下恵土地区 センター	37	防災	・避難する時の注意事項を確認した後、保育所から避難所まで歩いた ・緊急地震速報の音声を確認し、地震発生時にどのように自分の身を守るのか練習した	山田久子 住吉エリオ 洋一	カミリング・マルジ(指導補助) 伊藤章子(指導補助) 渡辺幸子(指導補助)

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第3回 平成30年9月9日】

・このワークショップは、外国人が多く住んでいるアパートのオーナー様から、彼らに向けて防災知識を高める講座を開催してほしいとの要望があり、2017年度より開催している。
・アパートの駐車場に集合し、ワークショップの趣旨と避難所、まちの中にある危険や安全について説明した。参加者全員でアパートの最寄りの避難所へ移動、道中危険な場所、安全な場所を見て確認した。
・避難所である牧野地区センターでは、外国人親子が防災知識の無さから災害時に適当な対応が出来ずケガをしたり死亡したりする小芝居を見てもらい、小芝居に登場する外国人親子と一緒に防災について考えた。
・具体的には、イス取りゲームを使って地震の際の初期動作を体験したり、災害時に知ってほしい「あぶない」「危険」「避難」などの日本語を伝言ゲームの要領で全員に回しながら各自が聞いて話すことをしたり、避難する時に持っていくたいものをグループで考えた後、他のグループが選んだものと比べながら各自が自分にとって大切なものを考えた。
・お土産として、ワークショップで確認した災害時に知ってほしい言葉をまとめたプリントを配布した



○取組事例②

【第6回 平成31年1月21日】

・保育所として初めての「避難訓練」として実施した。
・地震がどんな災害か、地震が起きて部屋の物が落ちたりブロック塀が倒れたりしている様子を描いた絵を使用して確認した。
・紙芝居「みんなでひなんくんれん」を読んで、避難するときに子どもたちに守ってほしい「おさない」「はしらない」「しゃべらない」を確認した。
・避難所について説明し、実際に近くの避難所へ行った。行く際には、はぐれたりしないようにロープを用意して、子どもたちにはロープから手を離さないように伝えた。
・避難所である下恵土地区センターでは、地震災害時の初期動作である「だんごむしのポーズ」を確認し、全員で繰り返し練習した。
・「だんごむしのポーズ」の練習前には、体の部位の日本語を歌を交えて確認し、「だんごむしのポーズ」がスムーズに取れるように工夫した。



(2) 目標の達成状況・成果

・可児市の防災訓練時期に合わせて6月には大雨災害をテーマにワークショップを実施した。ワークショップ前のアンケートでは、「洪水」を知っていると答えた人が5割、「警報」や「注意報」を知っていると答えた人が1割であったが、ワークショップ後のアンケートでは全員がそれらの言葉を知っていると答え、「大雨の時にはどこにも行かず、家にいます」「注意報を聞きます」などの感想があった。また、9月には日本語教室に一番近い避難所である下恵土地区センター開催の避難所開設訓練に参加することができた。その際、可児市防災の会から自治会の役員の方に避難所開設訓練への参加についての連絡を入れていただくなど連携を取ることが出来た。
・新たに外国人が多く通う保育所(ハンズオブゴッド)で避難訓練を行うことができた。指導者の方からは、「自分たちだけでは避難所まで実際に歩いて行くことが出来なかったのが、今回はとても良い機会となった。」との感想をいただいた。
・ファシリテーションのスキルアップと新たなメンバーの発掘のために養成講座を開催することが出来た。
・可児市版「災害時に伝わるやさしい日本語」については作成までには至らなかったが、外国人住民の方々に災害時に知っていて欲しい言葉を選びお土産プリントを作成、配布した。第3回(コーポ牧野住民向けワークショップ)のアンケートでは、「避難」「避難訓練」という言葉を5割の参加者が初めて聞いたと回答し、「危険」「あぶない」「にげる」については4割、「安全」についても3割の結果となった。
以上のことから、概ね目標は達成できたと考える。

(3) 今後の改善点について

・地域の避難所開設訓練に参加したが、地域住民と一緒に訓練に参加することには意義があったが、訓練の内容が避難所を開設する手順を確認するプログラムになっていて外国人住民には合っていないかった。避難所にどんな機能があるのかを確認したり、体験できるようなプログラム開発が必要である。その際には、防災士や地域住民の方々も参加していただけるようにするなど、地域や自治会などとの連携も必要。
・日本語教室などで勉強をしている外国人住民にとっても災害時に使われる日本語は知らない言葉が多いので、「災害時に伝わるやさしい日本語」についても検討を継続していく。

＜取組4＞											
取組の名称		成果発表会									
取組の目標		学習者が日本語学習の一年の成果を発表する。									
取組の内容		■コーディネーターによる取組事例報告 ポートフォリオ、日本語教室、災害時に伝わる「やさしい日本語」、空白地域(岐阜県坂祝町)の取り組み ■学習者の表彰 ポートフォリオを通じて、学習履歴を振り返り、出席率が良かった学習者を表彰した。 ■学習者による成果発表 日本語教室で習ったことや頑張ったことを参加者の前で、話すなど、習った日本語が、どのように役に立ったかなどを披露した。 ■外国人の直接雇用を目指した地域の企業の方々や地域住民の参加 出席率が良かった学習者を表彰し、ポートフォリオの取り組みが良かった学習者を紹介することで、学習者の頑張りを認めていただいた。学習者には、学習意欲向上につなげ、支援者には、支援のあり方を考えるきっかけとした。									
☒	空白地域を含む場合、空白地域での活動	坂祝町日本語教室立ち上げに関わる支援者が、成果報告を聞き、立ち上げる日本語教室の参考にした。									
取組による体制整備		本事業の日本語教育の全体像が、来場された行政、企業、学校、地域住民、日本語教育関係者、日本語学習者に周知された。									
取組による日本語能力の向上		学習者は、発表するための日本語を学んだ									
参加対象者		日本語学習者、日本語教室の関係者、行政、企業、学校、地域住民、日本語教育関係者					参加者数 (内 外国人数)		250人 (160人)		
広報及び募集方法		協会のホームページ、FaceBook、メルマガ、チラシ、多言語情報誌、行政									
開催時間数		総時間 5時間(空白地域 2時間)					内訳 5時間 × 1回				
主な連携・協働先		行政、地域の企業、地域住民									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
※該当する場合のみ		ブラジル、フィリピン、中国、ネパール、インドネシア、ペルー、日本 等									
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成31年2月3日(日) 10:00～12:00	2	可児市 多文化 共生センター フレビア	54	事例報告	取組1: 地域多文化共生人材育成推進委員会 取組2: 日本語教室 土曜日・日曜日・中上級者向け・子育て 取組3: 災害時に伝わる「やさしい日本語」 取組4: 日本語教室空白地域(岐阜県坂祝町)		—	各務真弓 近藤利恵、蒔田さよ 山田久子、戸塚真希 渡辺美也子、吉田よしえ 馬木照子 カミリングマルジ ザルダ・アルビー 堤内ロドリゴ		
2	平成31年2月3日(日) 13:00～15:00	2	可児市 多文化 共生センター フレビア	196	成果発表	学習者がステージ上で一年間の学習の 成果を様々な形で発表する		—	各務真弓 近藤利恵、蒔田さよ 山田久子、戸塚真希 渡辺美也子、吉田よしえ 馬木照子 カミリングマルジ ザルダ・アルビー ザルダ・アルビー 堤内ロドリゴ ガブヤ・レイゼル		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【平成31年2月3日】

二部構成で実施した。第一部(午前)は、本事業の取組事例報告を行った。日本語教室では、ポートフォリオを通じて、継続して出席する学習者が増えてきた。その上位10名を壇上で表彰した。来場者のアンケートの中に、「表彰されている外国人の方が誇らしい顔をしていたのが、良かった」「学習者の笑顔がとても素晴らしくて、こういった事業を継続させて、もっと外国人地域住民とのつながりが広がるといいと思った」というご意見があり、私たちの励みにもつながった。第二部(午後)は、当協会が運営する外国人向けの教室の学習者が、一年間学習した成果を発表した。日本語教室では、ファシリテーター、パネラーも学習者が行い、①日本語教室で、どんな日本語を勉強したか ②日本語教室で勉強した日本語は役に立っているか ③これから日本語を勉強して、どうなりたいか を発表した。



事例報告



事例報告



会場の様子



学習者の発表



学習者の発表



表彰者

(2) 目標の達成状況・成果

第一部の事例報告では、日本語教室支援者、地域企業、行政、地域住民など、さまざまな方が来場され、本事業の取組を周知させることが出来た。

【アンケート結果】

・種をまいた活動が、芽を出したり、花をつけたり、実を結んだりしていることを知ることができて、嬉しかった。日本語を教えるだけの日本語教室だったら、継続する学習者は少ないと思うが、あれだけの表彰者がいるということは、「日本語教室を超えた日本語教室」に進化している証明だと思う。日本語を教えることは、自分の全てをさげすみ出すことなので、大変だと思うが、人と人とのつながりが嬉しいし、財産になると感じ、続けていきたいと思った。(日本語教室関係者)

・どの取り組みも方向性がはっきりしてきたのを感じた。微力ながら、私も一員であることに誇りをもち、役割を果たしていきたいと思った。(日本語教室関係者)

・地域の中で外国人が生活するために、様々な取り組みがされていることを詳しく知ることができた。多くの人が、関わることの大切さも感じた。(日本語教室関係者)

・関わらせていただいている日本語教室の報告があると嬉しいです。企業や地元との関わりを進めるには、どうすればいいか考える機会になった。引き続き、日本語教室ににもっと参加できるようにしたい。(日本語教室関係者)

・映像があったので、分かりやすかった。日本語サポーターを今後も続けたい。(日本語教室関係者)

・素晴らしい活動を数多くされており、受講生が地域の一員として、生活できるように事業内容の工夫に邁進している姿が伝わってきた。(行政)

・多くの方が関わって、共に生きるまちづくりの視点を持った取り組みをされていることが分かった。(行政)

・可見市国際交流協会の事業を様々な視点で知ることが出来て良かった。(行政)

・とても考えた内容で企画者も楽しみながら、成長を支えていることが伺えた。(行政)

・地域企業とのつながりを少しずつ作っていらっしゃるのが、さすがだと思った。(行政)

・細やかな数字を入れたパワポが理解しやすかった。(可児青年会議所)

・とても勉強になりました。労働してみえる方々と意見交換をしてみたい。(可児青年会議所)

・分かりやすいと思いました。取り組みについて、詳しく理解できた。ユーモアもあり、楽しかった。引き続き、担当教室の活動を改良し、前進させていきたいです。外国からの皆さんが、楽しんで生活し、生活水準を向上していけるような活動に今後も参加したい。

・生活に密着した日本語学習は、さぞ困難なことと思いますが、可見市国際交流協会のスタッフの皆さんと学習者の皆さんの根気強い努力で、多くの難関を乗り越えていることを実感した。

・思った以上に色々な事業を行っていて、それぞれの事業ごとに担当の方の熱意が感じられて、とても良かった。

(3) 今後の改善点について

第一部については、参加者数が少ないのではないかと懸念していたが、54人も来場者がいた。アンケート結果を見ると、初めて事業内容を把握された方が多数いて、成果発表会を開催する意義につながって良かったものの、普段の日本語教室からの影響力、周知の低さを感じた。本事業に、もっと関心を持ってもらえるように日本語教室からの発信力を心がけたい。第二部については、学習者の中から、成果発表会本番までに何度か会えて、練習もできる人を選ばなければならない。継続的に日本語教室に来ている学習者は、指導者と信頼関係や絆を築いているため、問題なくできるが、そうではない学習者は、結局、成果発表会のメンバーにならない。いろんな学習者に参加してもらうには、どうしたらいいのか、今後考えていきたい。

＜取組5＞											
取組の名称		空白地域での取組：岐阜県加茂郡坂祝町									
取組の目標		坂祝町役場の働きかけによる外国人支援のネットワークを作る。 日本語支援者になるための呼びかけ及び養成									
取組の内容		空白地域の取り組み3カ年の最終年として、今まで、日本語教室が必要だと感じながらも、なぜ、開設に至らなかったのか、要因と問題点を整理しながら、下記のとおり、実施した。 ■行政との会議：日本語教室の方針の決定 ■日本語教室開設に向けた検討会議：行政、コーディネーター、日本語講師による日本語教育プログラムの策定や実施に関する検討 ■プレオープンイベント：ワールドカフェ「日本文化を通して交流しよう」 ■地域日本語支援者養成講座の実施 ■在住外国人実態アンケートの実施									
☒	空白地域を含む場合、空白地域での活動	上記のとおり									
取組による体制整備		本事業で、当協会が日本語教室開講に向けて、コーディネートしていくが、今後は、坂祝町が主体となって、運営できるような体制をとった。									
取組による日本語能力の向上		ワールドカフェでの日本文化に関する言葉、習慣 及び 地域日本語支援者養成講座の第3回目で実施された防災に関する知識と言葉									
参加対象者		外国人を支援したい人、坂祝町役場 地域住民、在住外国人					参加者数 (内 外国人数)		34人 (16人)		
広報及び募集方法		協会のホームページ、FaceBook、メルマガ、チラシ、多言語情報誌、行政、坂祝町広報誌									
開催時間数		総時間 16 時間(空白地域 16 時間)					【プレイベント】 2時間 × 1回 = 2時間 【検討会議】 1時間 × 2回 = 2時間 2時間 × 1回 = 2時間 1.5時間 × 1回 = 1.5時間 【養成講座】 2時間 × 3回 = 6時間 2.5時間 × 1回 = 2.5時間				
主な連携・協働先		坂祝町役場、坂祝町教育委員会、坂祝町各自治会、地域住民									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
			16							18	
※該当する場合のみ											
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成30年6月16日(土) 10:00～12:00	2	坂祝町 中央 公民館	8	【プレイベント】 ワールドカフェ	日本の文化である”抹茶”を飲んだり、和菓子を食ったりして、一緒にお話をする		近藤利恵	上杉陽介、登田アンナ 山岡、樋口、白戸、北村		
2	平成30年6月6日(水) 18:30～19:30	1	坂祝町 役場	7	【検討会議①】 ワールドカフェについて	日程、内容、方法、準備など確認する		-	上杉陽介、登田アンナ、 近藤利恵 土屋、山岡、樋口、白戸		
3	平成30年7月5日(木) 18:30～20:30	2	坂祝町 役場	8	【検討会議②】 ワールドカフェの振り返り	外国人参加者と会話してわかったこと 全体の進行について 今回のイベントで何か発見やわかったこと 参加外国人からのアンケート意見		-	上杉陽介、登田アンナ 近藤利恵 土屋、安田、白戸、樋口、北村		
4	平成30年度7月31日 (火) 18:30～19:30	1	坂祝町 役場	9	【検討会議③】 今後に向けて	坂祝町が今年度日本語教室開設に向けて 取り組む理由 今後の流れ		-	上杉陽介、登田アンナ 近藤利恵 土屋、北村、安田、樋口、白戸、山岡		
5	平成30年8月3日(金) 13:30～15:00	1.5	中日本 自動車 短大	4	【検討会議④】 日本語教室立ち上げについて	本事業で取り組む日本語教室空白地域の 取組説明 日本語講師の依頼		-	上杉陽介、近藤利恵 古川、高瀬		
6	平成30年9月23日(日) 13:00～15:00	2	坂祝町 中央 公民館	7	【養成講座①】 地域日本語教室における支援者とは	地域日本語教室とは何か。支援者としての心構えや支援者として何ができるのかを考える。		米勢治子	上杉陽介、登田アンナ 近藤利恵		
7	平成30年9月30日(日) 10:00～12:00	2	坂祝町 中央 公民館	7	【養成講座②】 異文化理解	坂祝町在住外国人の中でブラジル人が一番多い(52%)。ブラジルの文化や習慣について学ぶ。		吉田よしえ	上杉陽介、登田アンナ 近藤利恵		
8	平成30年11月11日(日) 13:00～15:30	2.5	坂祝町 中央 公民館	15	【養成講座③】 演劇手法を用いた防災ワークショップ	地域日本語教室では、活動型も取り入れられ、日本語習得につながることを理解してもらった。この回は在住外国人も参加。		山田久子 住吉エリオ 登田アンナ (0.5時間)	上杉陽介、登田アンナ(2時間) 近藤利恵 住吉ユウゾウ 山田久子、住吉エリオ		
9	平成30年12月2日(日) 13:00～15:00	2	坂祝町 中央 公民館	15	【養成講座④】 体験型日本語ワークショップ	外国人にどう寄り添えばいいか、自分のアイディアを形にするファシリテーター的要素から支援の方法を学ぶ。		河野悟	上杉陽介、登田アンナ 近藤利恵		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 平成30年6月6日】プレイベント

日本語教室に関わろうとしている支援者の企画。「日本語教室」という堅苦しいものではなく、カフェ感覚で気軽に参加できるように趣向を凝らした。いろんな国の方が一品持ち寄りで、集まるなどの意見も出たが、まずは、日本文化を伝えながら、交流を図るという目的で、お抹茶でもてなすことにした。苦くて、飲めない人もいれば、お菓子を食べながら、少しずつ飲んでいる人、様々だった。作法、行儀という観点からは程遠いが、味わうという意味では、和気あいあいとした話題へとスムーズに入れた。今後、日本語教室で取り扱うテーマに必要な生活で困っていることや、教室で習いたいことなど、ニーズを聞き取ることが出来た。



○取組事例②

【第9回 平成30年12月2日】日本語支援者養成講座

日本語教室に関わりたけれど、英語やポルトガル語が話せないからどうやって接していいのかわからないという講座申込者がいた。日本語だけでどういふ言葉がけをしたらいいのかわからない、また、自分のアイデアが形になる方法を演劇を用いながら学んだ。養成講座の受講生が将来、一緒に日本語教室を運営していく仲間だということを意識して、「皆さんを知って、皆さんと仲良くなる」をコンセプトに楽しく講座が進んだ。



(2) 目標の達成状況・成果

日本語教室空白地域の取り組み最終年として、未だ日本語教室が開設に至れない要因と問題点を3つに分けて整理をした。①行政の方針について：日本語教育に対する方針は何か。施策の中に外国人がどういふ形で入っていくか。外国人がトラブルなく、安心して暮らせるためには、どうするか。を考えてもらわなければ、支援者が募ったところで、ついていく先がないことが分かった。坂祝町に本事業の取組を外国人施策、行政サービスの一環として捉えてもらうために、何度も話し合いを重ね、町長、副町長、教育長を巻き込み、決裁を得るに至った。そこには、坂祝町に在住外国人を「地域の構成員の一員に」という発想が芽生え、日本語教室を「在住外国人と日本人が共に町づくりを行っていく場」とする方針に決まった。②人的リソースについて：リソースがないならば、支援者を募集し、養成講座を実施することにした。教育長自ら、受講生となり、また教育長が町民に声掛けをして下さったため、講座後半、受講者が増え、自分たちのアイデアが形となり、外国人に寄り添う方法があることを学び、日本語教室に関わりたい意欲につながった。③学習者のニーズについて：従来、特に日本語に困っていないとの情報があった。そこで、本当に困っていないのかを探るために、在住外国人実態アンケートを実施した。坂祝町在住16歳以上469人に、10月1日発送、11月2日〆切で郵送し、80人が回答した。(返却率17.1%) このアンケートは、＜Ⅰ＞性別・年齢・地区・出身・在留資格などの「外国人の属性」＜Ⅱ＞日本語学習経験、学習状況、学習ニーズ、使用状況などの「日本語について」＜Ⅲ＞日本語能力、場面ごとの日本語能力などの「能力について」の三部構成になっている。アンケート結果では、「特に日本語に困っていない」という回答が多かったが、日本語能力で「ほとんど～できない」という回答も多い。特に困っていないという回答は、日本語能力でカバーできているものではないことが分かった。

以下、養成講座受講生のアンケート結果

【1】

・日本語教室ができるまでの背景が分かり、今後の形作りの参考になった。対話中心の活動、コミュニケーションを通して、人間関係を築き、相互理解を深める。この時間を通して放たれる言葉と言葉がお互いの生活や人生にとって、よりよい影響が響き合うことを願ってサポーターを楽しみたいと感じている。

・日本語を使って、外国人とコミュニケーションをとることが大変だと痛感した。やさしい、わかりやすい日本語で伝えることの難しさ、地域との交流が第一だということ、より人間関係作りが大切なのではと思いました。もう少し外国人と話す時に注意していきたいと思う。

・初めての参加で「どういふことか・・・」さえないままの参加だったが、あっという間の2時間で、楽しく学ぶことができた。一歩が踏み出せそうです。

【2】

・ポルトガル語は、英語とだいぶ異なることもあり、やっぱり読むのも難しい。ただ、やはり基本は、「伝えようとする気持ち」です。

・ブラジルの文化、習慣が少し分かりました。日本語でも絵や動作で教えることの必要さが分かった。

・外国人に何かを伝えるためには、言葉だけでは伝わらない。絵や写真を利用して、ジェスチャーなどもいれながら言葉を伝えるとずっと伝わるということがよく分かった。また、その人のプライドも傷つけないように対応してはいけないことも分かった。今後役に立たい。

【3】

・外国人と一緒に学ぶことができるという貴重な体験をすることができた。「共生」のためには、「共に学ぶ」ことが大切であり、必要であることが分かった。「言葉」「リアクション」「行動」を大切にしながら、コミュニケーションをとれるようにしたい。

・外国人には、当たり前だと思っていたことが通じているとは、限らないのだということがよく分かった。ゆっくりとできるだけ短い言葉で話すということが大切だと思う。これから少しずつやっていきたい。

【4】

・楽しい時間を皆さんと共有することができ、有意義な受講となった。今後、坂祝町の外国人(子どもたち)と楽しく、有意義な時間を共有できる取り組みを進めていきたい。担当者だけでなく、多くの方々を巻き込んでくれるように働きかけていきたい。

・とても楽しい時を過ごせて、時間があっという間だった。参加された方々と共感できる瞬間が何度もあり、素敵な気持ちを感じられた。

・何気ない言葉で仲良くなれる他国の言葉は覚えるのが大変なのだから、当然、外国人も難しいと思うのがよく分かった。言葉は通じなくても理解し合えることが、よく分かった。

(3) 今後の改善点について

本事業の取り組みとして、空白地域に「日本語教室を作ること」を根源に様々な内容で実施した。

行政の意識を変えること、リソースを増やすこと、ニーズを調査すること 日本語教室を運営する準備は、整いつつはあるが、要となるコーディネーターや指導者がいない。支援者の中から、発掘することも考えたが、なかなか難しい現状がある。どのようにしたらコーディネーターとしての人材を集められ、コーディネーターとして育成できるのか、現在、人材不足のため、いくつかの教室を兼務した人材が関わることになる。本事業で取り組む前の坂祝町の「以前は日本語教室はあったが、続かなかった」という同様の事態が起きないように、今後、人材確保の仕組みを作っていかなければならない。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

今後も外国人の受け入れによる新たな来日者の増加や定住化傾向が高まると考えられることから、地域で暮らす外国人に必要な日本語の会話や文字の読み書きの習得を支援するとともに、地域の様々な文化を習得する機会を地域日本語教育の拠点として整備する。様々な取組の中で、学んだことを地域でどう活かせるか学習者も指導者も共に考え、地域での日本語教育の在り方を今後も継続して検討していける体制を作ることを目的とする。また、日本語教育の空白地域である坂祝町については、地域住民に日本語教室のサポーターとして呼びかけ、養成し、日本語教室開設に向け、体制を整えることを目的とする。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

日本語教室に継続して学習者が来ないという課題を解決するために、本事業で以下の内容を検討し続けてきた。H27年度以前から学習者が日本語教室で学んだことを何らかの方法で評価され、それを地域にアピールでき、就労などに活かせる仕組みをつくるため、認定証発行に向けた検討に取り組んできた。H27年度、行政と事務局、中核コーディネーターが何度か話し合いをする中で、日本語教室のメンバー（指導者・サポーター）が認定証の必要性を感じないと、日本語教室と認定証がそれぞれ独立した状態になってしまうのではないかと懸念が生じた。そこで、H28年度から、毎月、中核コーディネーター会議を行い、認定証発行を見据えた教室のあり方を検証し、会議を重ねるうちに、形にしていけるものが見えてきた。当初、私たちが思い描いていた認定証は、テストという形式で評価を決めていく方法だったが、学習履歴も評価に入れていくことを考えると「ポートフォリオ」のイメージだということに気付いた。H29年度から「ポートフォリオ」実施した。H30年度は、3力年の最終年として、継続して学習者が来られる仕組みの検証と「ポートフォリオ」の取り組みを地域へ発信し周知させ、地域の方々に学習者が日本語教室で学んだことを評価されるような機会を作ることができた。日本語教室内でも「ポートフォリオ」の取り組みが浸透し、自己評価をする大切さを感じたり、日本語教室に継続して来る学習者が増えた。ポートフォリオの元となるCanDoリストを運用することで、指導者やサポーター、学習者が今日、学習する項目が明確になり、授業が進めやすくなり、全員と情報共有することが出来て、サポーターが学習者に寄り添う姿勢に変化が見られた。日本語教室について、レベル別にグループを設定しているクラスでは、順にステップアップして日本語力を向上している学習者が数名いたり、教室で学んだことが普段の生活の中で思い出す場面があるという声や、生活の中で日本人に話しかけたり、コミュニケーションが楽しくできるようになったという声も聞くようになった。この3力年を通して、「指導者とのつながりが増える」という基本的なことができてきたり、指導者及びサポーターと学習者の輪が広がっていると感じた。成果発表会について、本事業の取り組みの事例報告に関心を持って来場される方が、年々増えてきたことに喜びを感じる。ポートフォリオの取り組みを「継続して日本語教室に来た学習者の表彰」という形で、称え、周知させたことが、学習者だけでなく、関わる指導者・サポーターにも、誇りと励みにつながっていることが、アンケートによって、分かった。空白地域：坂祝町については、最終的に日本語教室を作ることを目標に、様々な形で、取り組んだ。行政の方針が決まったことは、日本語教室を作る上で非常に大きく、日本語教室開設実現に向けて、かなり前進した。アンケート結果から、持家の人が多いということも踏まえ、長く住んでいくには、「子育て」「自治会など地域住民との関わり」の2点に着目し、来年度立ち上げ日本語教室は、保健師や看護師、消防士、自治会に関わる方々が、実際、講師になり、支援者も学習者も学び、次回、学んだ知識と日本語を復習し、習得につなげるというスタイルにし、在住外国人と日本人が共に町づくりを行う日本語教室として、運営を目指していくことになった。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

- ・安定した就労に向けて、日本語の習得を認めてあげる方法の一つでもあった「ポートフォリオ」について、3力年の最終年に、可児青年会議所による企業会議を行うことが出来た。
- ・日本語教室の中で、地区センターの避難所開設訓練に参加した。避難者登録、備品の場所、内容の確認、AEDの使用法、避難食の試食など、防災についての知識を学ぶことができた。
- ・日本語教室の中で、食生活改善推進員の有志でできたミールの会に、可児市の特産である里芋を使ったお料理教室をしてもらった。また、子育ての日本語の中でも、お弁当講座を開催してもらい、毎日、簡単に・手軽に作ることでのお弁当用レシピや彩りがよく、美味しく見える盛り付けのコツなどを教えてもらった。
- ・子育ての日本語の中で、学校入学について可児市子育て応援センターばうむのスタッフ(教諭)に講師になってもらい、具体的に分かりやすく説明してもらった。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

当協会は、毎月15日に多言語情報誌を70ヶ所に配布している。(可児市内全小中学校：子どもに配布される。近隣小中学校、幼稚園保育園、行政、国際交流協会、地区センターなど)その情報誌に掲載したり、折込チラシとして、同封した。特に、参加してもらいたい機関には、チラシを拡大コピーしてポスター掲示できるようにして郵送した。事業成果は、成果発表会を実施し、地域住民、関係各所、たくさんの在住外国人が来場した。当協会が運営する教室の発表を併せて開催することにより、子どもの保護者が大勢、来場し、一年間の学習の成果を見たり聞いたりする中で、本事業の成果も見られるような構成を組んだ。

(5) 改善点、今後の課題について

当協会では、在住外国人が、安定した仕事に就き、余暇を楽しむことが「生活者としての外国人」と捉えて、本事業の取り組みを開始した経緯がある。日本語教室で学んだことを評価し、その学習者を地域の企業につなげる。また、評価を認める方法について検討内容が変遷し、最終的にポートフォリオに至った今、この取り組みについて、学習者に確認すると、自己評価をすることは大事だと思っているが、たとえ企業側が、頑張った学習者に対して「是非、わが社へ」と直接雇用には結びつかない矛盾点が生じている。また、学習者にとって、安定した就労とは、直接雇用よりも、単純に「(派遣社員でも)今、仕事がある。」ということを指している。今、派遣社員でも仕事があって、余暇を楽しんでいるのに、その仕事を辞めてまでも、直接雇用に転職することはリスクであり、私たちも勧めることは出来ない。では、ポートフォリオの取り組みは何だったのか。3年かけて、学習者を認める方法を検討し、3年目にやっと企業会議が開催できたが、そこでは、日本語教室運営の周知と今後の可能性を情報共有するだけだった。しかし、ポートフォリオに取り組んだからこそ、地域の企業とつなげたい。という思いに至り、実現した。顔の見える関係を作れたことが成果であり、今後も地域住民として、地域の企業として、日本語教室で学習する外国人のことを話題にして、地域に巻き込んでいきたい。

(6) その他参考資料

日本語教室チラシ

中上級者向け日本語教室 チラシ

子育ての日本語チラシ

新聞記事：成果発表会

坂祝町：ワールドカフェチラシ

坂祝町：養成講座防災WSチラシ

坂祝町：外国人町民意識報告書2018